卒業メニュー（1）

（中学一年生の「あたし」（梢）は、三月の終わりに転校を控えています。しかし、「あたし」は転校することを友達に言えずにいました。）

店を出ながら、あたしは美貴に声をかけた。

「待たせてごめんね。さっきからなに見てたの？」

「桜のつぼみがあったから。この街に来て、もうすぐ一年になるんだな、と思って」

美貴がこっちを振りかえってこたえた。

「ああ、そういえば去年のこの時期だっけ、美貴が引っ越してきたのって」

もっと前から友達だったような気がしてた、とあたしは思った。

美貴と仲よくなったのは、もともと美貴のおばあちゃんから、友達になってやってくれ、と頼まれたのがきっかけだった。最初のうちは、気取ったところが①鼻についたり、絶交寸前までいったりしたこともあったけど、いまではあたしのいちばんの親友だ。性格も趣味も全然違うのに、なんでこんなにいっしょにいて居心地がいいのか、自分でもよくわからないけど。

桜のつぼみは、もうピンクに色づいているやつもちらほらあった。最近やたらとあったかいから、あたしが引っ越す前に咲きはじめるかもしれない。

行きましょう、と声をかけられて、あたしは美貴とならんで歩きだした。そのあとでまた桜のつぼみを振りかえって、ぼんやりと考える。

来年のいまごろは、あたしも引っ越した先の街で、②美貴と同じようなことを考えていたりするんだろうか。そのときあたしは、まだ美貴やほかのみんなと、いまのような友達のままでいられるだろうか。

美貴のすました横顔をちらっと見てから、あたしはそれとなく聞いてみた。

「③あのさ、前の学校の友達からは、まだ結構連絡があったりするの？」

「もうほとんどないわね。まあ、しかたがないわ。いくら仲がよくたって、離ればなれになったら、自然とそうなるものでしょう？」

他人事のように素っ気ない言いかただった。はっと息をのんでしまうと、④美貴はあたしが美貴のために心を痛めていると思ったんだろう。あたしのことを気遣うように、明るくほほえんで言った。

「残念だけど、それほど寂しくはないわ。梢や桃たちのおかげでね」

それから美貴は、ちょっとだけしんみりした声になって、「二年生になっても、またみんないっしょのクラスになれるといいわね」と続けた。⑤あたしはまたびくっとしてしまってから、自然な口調を装ってこたえた。

「みんなって、桃や朋華や沢ちゃんも？　いやあ、さすがに全員いっしょは無理があるんじゃない？」

「いいでしょう、そうなるといいなって思っているだけなら」

美貴はふざけてあたしをにらんでから、にこっと笑ってみせた。

（如月かずさ『給食アンサンブル』光村図書出版　所収「卒業メニュー」による）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「鼻についたり」とあるが、「鼻につく」の意味として適当なものを選びなさい。

ア　得意なさま。自慢げな様子。
イ　嫌味に感じられる。
ウ　相手を出し抜いて、あっと言わせる。

〔　　〕

(2) ——線②「美貴と同じようなこと」とは、どのような内容を指しているか。解答欄に合うように本文中から十九字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点も一字に含む。

□□□～□□□ということ。

(3) ——線③「あのさ、……するの?」とあるが、「あたし」はなぜこのように聞いてみたと考えられるか。適当なものを選びなさい。

ア　美貴が以前どのような人と友達だったのか知りたかったから。
イ　自分の気も知らない美貴のすました態度が不満だったから。
ウ　転校しても友達の関係が続くものかどうかが気になったから。

〔　　〕

(4) ——線④「美貴はあたしが美貴のために心を痛めていると思ったんだろう」とあるが、美貴は「あたし」が何に心を痛めていると思っているのか。適当なものを選びなさい。

ア　美貴が以前の友達と疎遠になり、寂しい思いをしていること。
イ　美貴が他人事のような素っ気ない言い方をしたこと。
ウ　美貴が「あたし」の思いを気にかけないような発言をしたこと。

〔　　〕

(5) ——線⑤「あたしはまた……こたえた」とあるが、このときの「あたし」はどのような心情だと考えられるか。適当なものを選びなさい。

ア　みんながまた再び同じクラスになるという無理がある願いを口にする美貴に、不信感をいだく気持ち。
イ　自分が転校してしまうことを知らない美貴にまた同じクラスになりたいと言われ、気まずい気持ち。
ウ　前の学校の友達と離ればなれになってしまったことを美貴が未だに悲しんでいる様子に、驚く気持ち。

〔　　〕